



COMPANY PROFILE

会社案内



三菱造船株式会社
本社
〒108-8015 港区芝五丁目33番11号
TEL. 03-5476-6903(代表)
<https://www.mhi.com/jp/group/mhimsb/>



海を舞台として 確かな技術力で未来を創造する

私たちは、三菱重工グループの一員として、海に関わる全ての事柄を私たちの事業範囲としてとらえ、従来からのものづくりを主体とした造船に加え、造船を基盤とした関連技術および三菱重工グループの総合技術による海事エンジニアリングをもって国内外の海事産業の発展に貢献して参ります。

私たちは、長い造船の歴史において、多種多様な船舶および海事関連製品を手がけながら、海事法令や諸規則、標準制定など国内を始め世界の海事産業の発展に貢献してきました。これまでの多くの実績の中で培われ蓄積された要素技術とそれらをまとめ上げる統合力を駆使し、顧客第一の信念に徹し、新しいことに積極的に挑戦し、様々なお客様のご要望にお応えしていきます。

私たち三菱造船株式会社は、海を舞台として確かな技術力で未来を創造していきます。

ミッション(使命)

私たちは、海を舞台として確かな技術力で未来を創造していきます

ビジョン(将来像)

造船を基盤とし、海事に関する課題解決とニーズに応えるため、新しいことに積極的に挑戦し、それを継続することで価値を創造し、持続的に発展する企業を目指します

バリュー(価値観)

三菱重工グループの行動指針に則り、「安全」、「確かな品質」、「タイムリーな対応」を堅持します



沿革



事業拠点

東京(本社)

〒108-8015
港区芝五丁目33番11号



下関(江浦工場)

〒750-8505
山口県下関市彦島江の浦町6-16-1



長崎(本工場)

〒850-8610
長崎県長崎市鮎の浦町1-1



長崎(香焼工場)

〒851-0310
長崎県長崎市香焼町180





三菱造船は1884年を起源とする三菱重工の造船の歴史を引き継いでいる会社です。2018年に三菱重工から事業を継承し、伝統ある三菱造船という名で再出発して以来、多種多様な船舶を世の中に送り出しながら、海事に関するエンジニアリングおよびサービスに積極的に取り組んできました。今、世界および日本の海事産業は、人・環境・地政学・技術に関わる様々な課題を抱え、多種多様な解を取り得る複雑な問題に直面しています。我々は、これらの課題に果敢に挑戦する時代に突入したのです。

三菱造船はこの複雑な問題に向き合い、新しい造船ビジネスモデルを通して、世界や日本の海事産業の課題解決に全力で挑戦していきます。複雑な問題への解は、複雑な取り組みが必要です。一つの組織で解決できるような単純なものではありません。今や、世界が協調して問題に取り組む時代になっています。当社は様々なビジネスパートナーと共に歩み、成長することを選択します。

当社は高密度艀装船で実践する造船技術、LNG・アンモニア・液化CO₂に関わる環境技術などを最先端で開発し、従来の船舶の開発・設計・建造にも革新的な手法を取込み、確かな技術でビジネスパートナーと連携し協業をリードします。

未来の成功を目指し、未来への責任ある行動のために、当社は自らの成長の軌跡を確実に描いていきます。そして、安全第一をモットーに確かな品質とタイムリーな対応で価値を創造し、造船ビジネスを魅力あるものとして産業界と共に成長していきます。

取締役社長 CEO
上田 伸

三菱造船のSDGsへの取り組み

～「2050年Vision」を定め、各事業・製品を通じてSDGsに取り組んでいます～

2050 Vision 01

安心・安全な社会を実現するために

造船の枠組みを超えたデジタル技術とサービス事業を拡大する。
人と海の営みに寄り添い、だれもが安心して豊かに暮らせる循環型社会を実現します。



海事産業の電化・デジタル化	海洋開発の促進	洋上体験の経験価値向上
産業従事者がより安全かつ効率的に働けるようテクノロジーで支援する。	確かな技術で海洋・海底資源の調査活動を支え、安全な開発と環境保護の推進に貢献する。	人々が洋上で快適な時間を過ごし、洋上空間を活用した豊かな暮らしを可能にする。
関連製品 運航支援システム、 ハイブリッド電動推進船	関連製品 海洋調査船・ケーブル敷設船	関連製品 小型客船、カーフェリー

2050 Vision 02

海の脱炭素化社会を実現するために

船舶の脱炭素化を進め、洋上を活用した再生可能エネルギー利用とCO₂回収を促進する
環境と調和し、持続可能でレジリエントな脱炭素化社会を海から実現します。



船舶の脱炭素化	再生可能エネルギー活用の拡大	CCS/CCUSの推進
LNGやアンモニアなど代替燃料の利用拡大を進め、将来は合成燃料活用や電動船に取り組む。	洋上風力発電の拡大と再生可能エネルギーを利用した燃料生産に取り組む。	産業設備が排出するCO ₂ を回収して地中への貯留または利活用を推進する。
関連製品 LNG燃料ガス供給システム、LNG燃料フェリー、アンモニア燃料ハンドリングシステム	関連製品 洋上風車向けセミサブ型浮体	関連製品 船上CO ₂ 回収システム、 液化CO ₂ 輸送船

会社概要

会社名：三菱造船株式会社
設立：2018年1月1日
本社所在地：港区芝五丁目33番11号
取締役社長 CEO：上田 伸
事業内容：船舶エンジニアリング、船舶の設計、製造及び修理
資本金：3,000百万円
株主構成：三菱重工業株式会社 100%
グループ会社：エムエイチアイマリンエンジニアリング株式会社
MHI下関エンジニアリング株式会社

組織図



PRODUCT LINEUP

日本の近代造船発祥の会社として、つねに世界の船舶・海洋事業をリードしてきました。
その1世紀を超える伝統と長年培ってきた技術力を活かし、多様なニーズに応える
商船や特殊船などを開発・建造しています。また、エンジニアリング事業にも
力を入れており、世界の海を舞台に幅広く活躍しています。

商 船

フェリー・貨客船

自動車運搬船/RORO船

巡視船艇

海洋資源探査船

ケーブル敷設船

調査・研究・練習船

その他商船／特殊船

エンジニアリング事業

環境システム製品

造船エンジニアリング

DXソリューション

商 船

フェリー・貨客船



フェリー さんふらわあくれない(LNG燃料船)

総トン数	17,114 トン	速力	22.5 knots
全長	199.9 m	建造場所	下関
幅	28.0 m		



フェリー けやき

総トン数	14,157 トン	速力	28.3 knots
全長	199.0 m	建造場所	下関
幅	25.5 m		



フェリー きたかみ

総トン数	13,694 トン	速力	21.5 knots
全長	192.5 m	建造場所	下関
幅	27.0 m		



貨客船 さるびあ丸

総トン数	6,099 トン	速力	20.0 knots
全長	118.0 m	建造場所	下関
幅	17.0 m		



貨客船 ゆりや

総トン数	273 トン	速力	23.0 knots
全長	46.0 m	建造場所	下関
幅	8.0 m		

RORO船/自動車運搬船／海洋資源調査船／調査・研究・練習船



RORO船 ふじき
総トン数 15,986 トン 速力 23.0 knots
全長 167.0 m 建造場所 下関
幅 30.2 m



RORO貨物船 TRANS HARMONY GREEN (LNG燃料船)
総トン数 49,264 トン 速力 19.5 knots
全長 195.0 m 建造場所 下関
幅 30.6 m



KEYS Azalea
総トン数 4,744 トン 速力 12.0 knots
全長 82.4 m 建造場所 下関
幅 18.2 m



RORO船 ひまわり8
総トン数 10,626 トン 速力 23.0 knots
全長 166.9 m 建造場所 下関
幅 27.0 m



海洋資源調査船 白嶺
総トン数 6,283 トン 速力 15.5 knots
全長 118.3 m 建造場所 下関
幅 19.0 m



海底広域研究船 かいめい
総トン数 5,747 トン 速力 12 knots
全長 100.5 m 建造場所 下関
幅 20.5 m

巡視船／調査・研究・練習船／ケーブル敷設船／その他特殊船



ヘリコプター搭載型 (6,500トン型) 巡視船 あさづき
総トン数 6,500 トン 速力 25.5 knots以上
全長 150 m 建造場所 下関
幅 16.8 m



練習船 大島丸
総トン数 373 トン 速力 12.5 knots
全長 56.49 m 建造場所 下関
幅 10.60 m



学術研究船 白鳳丸
総トン数 3,991 トン 速力 16 knots
全長 100.0 m 建造場所 下関
幅 16.2 m



多目的対応船 TERESA MAGBANUA
総トン数 2,265 トン 速力 24 knots
全長 96.6 m 建造場所 下関
幅 11.5 m



ケーブル敷設船 すばる
総トン数 9,557 トン 速力 13.2 knots
全長 123.33 m 建造場所 下関
幅 21.0 m



漁業取締船 はやかぜ
総トン数 56 トン 速力 35 knots 以上
全長 26.0 m 建造場所 下関
幅 5.4 m

エンジニアリング事業

環境システム製品

液化ガス輸送船を含む、多種多様な船の建造実績により培われた経験・ノウハウを活かし、環境システム製品の販売のみならず、搭載される船の設計・建造・運航に関わるエンジニアリングサービスも提供します。

アンモニア燃料ハンドリングシステム MAmmoSS®

燃焼時にCO₂を排出しないアンモニアを燃料として利用するためのアンモニア燃料ハンドリングシステムMAmmoSS®を提供しています。



Ammonia Fuel Supply System (AFSS) アンモニア燃料供給システム イメージ図



アンモニア燃料船 バルクキャリア



詳しくはウェブサイトをご覧ください

LNG燃料ガス供給システム (LNG FGSS)

船用ディーゼルエンジン向けのLNG燃料ガス供給システム (LNG FGSS) を提供しています。



LNG燃料タンク



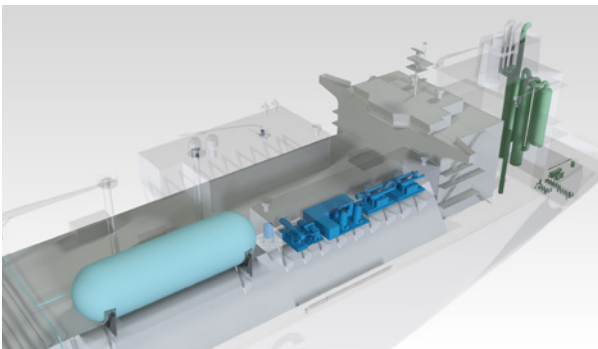
FGSSモジュール



詳しくはウェブサイトをご覧ください

船上CO₂回収システム (OCCS)・液化CO₂輸送船 / 液化CO₂ハンドリングシステム

船舶の排ガスから効率的にCO₂を回収するシステムや、陸上産業設備から回収したCO₂を貯留地や利活用地へ運ぶ輸送船およびカーゴハンドリングシステムの開発を進めています。



船上CO₂回収システム (OCCS)



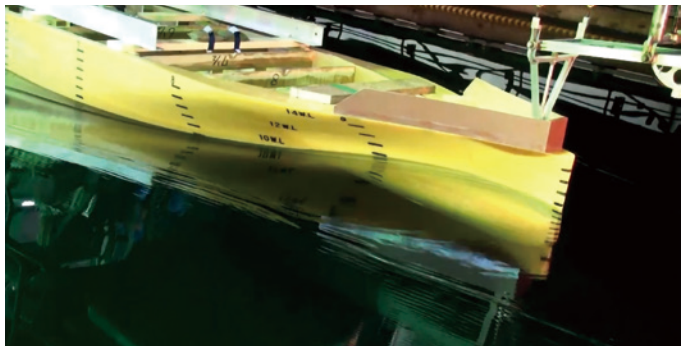
液化CO₂輸送船 / 液化CO₂ハンドリングシステム

造船エンジニアリング及びDXソリューション

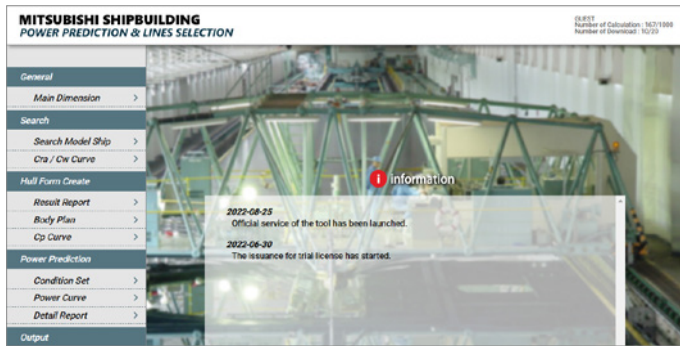
最先端のCFD技術や豊富な水槽試験データを用いて、他社造船所向けに高性能船型の開発を実施しているほか、各種設計業務やプロペラ、省エネデバイスの開発・販売まで幅広いソリューションを提供しています。

- 船型開発 ● 各種水槽試験 ● プロペラ、省エネデバイス(リアクションフィン) ● 概念設計、基本設計、詳細設計
- 構造解析、振動解析、通風解析 ● 3Dモデル作成
- 性能・船型ツール(MiPoLin®)水槽試験データベースを利用した性能推定及びラインズ作成システム
- 造船用3D-CADシステムMATES®(Mitsubishi Advanced Total Engineering system of Ships)及び3D-Viewer(HullViewer®/FitViewer®)の販売

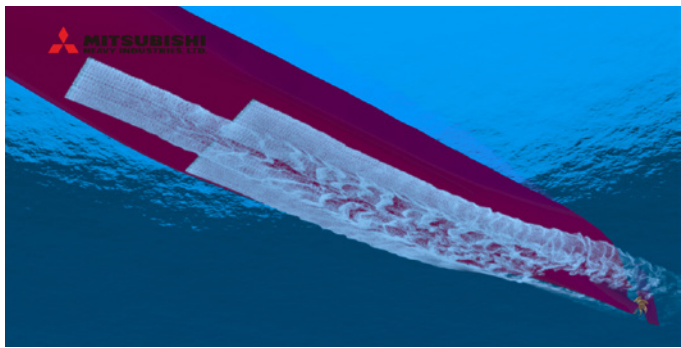
その他、ご要望に応じて幅広く対応いたします。



水槽試験による船首波形



性能・船型選定ツール (MiPoLin®)



MALS (Mitsubishi Air Lubrication System)



MATES®機関室3D設計

運航支援システム

内航船のDX化を推進する海事スタートアップ企業、Marindows株式会社とともにDXを通して内航海運に安心・安全を届ける取組みを推進しています。人手不足や船員の労務環境改善、海難事故の防止といった課題解決に挑戦を続けています。

船舶のDX化・機器連携

- タブレット型運航支援システム
- 電子参考図 (new pec※) 上に自船GPS位置、他船AIS情報表示。
- 航海計画、トラッキング、衝突座礁警報、避航計画支援
- 音声入出力機能
- 将来的にはクラウドサーバや船用ドラレコなどの連携機能を開発予定。

※一般財団法人 日本水路協会 提供

